

# まいづる 元気人 ⑱

## 教え子たちへの願いは、野球を続けてもらうこと

### 福井少年野球クラブ 監督 加藤 正 さん



今年の第43回中信杯全京都学童軟式野球春季大会（158チーム出場）において、京都府北部勢で初めての優勝を決め、8月5日（火）から10日（日）まで行われる全国大会（阿波踊りカップ学童軟式野球大会）への切符を得た福井少年野球クラブ。そのチームを率いる加藤正監督に全国大会にかけの意気込みと指導する子ども達への熱い思いを伺いました。

#### 原動力

「練習中は厳しく指導しますが、最高学年の卒部式には今までよくついてきてくれたといつも感極まるんですよ」と話す福井少年野球クラブの加藤正監督。小学1〜6年生までのクラブ生20人を率いる。チームカラーは「守備力」だ。厳しい指導でも、子ども達が自らやる気を起こさせる監督の戦略は、守りを重視し守備力で勝ち抜くこと。このチーム目標で数々の強豪チームとの接戦を制してきた。

コーチを7年、監督を5年と同クラブの指導に携わってからもう12年になる。自身も大学生まで野球を続け、結婚を機に福井校区へ移り住んだ。前監督の阿波正明さんに声をかけられたことが指導者の道を引き受けたきっかけ。現在まで多くの子ども達を育成し、「中学生や高校生、大学生になっても野球を続けてくれることが指導者を続けている大きな原動力となっています」と監督。

#### 支えてくださる皆さんへ感謝

これまで「京都府で頂上（トップ）チームを獲得」と練習に熱を入れる一方で、「サポートをしてくれている保護者や地域の皆さんには頭が下がります」。心・技・体においてチームを強くするためには、公式戦や練習試合などの実践が不可欠。昨年は100回、今年の新年チームでも



▲全国大会を前に士気を高めるクラブ生

すでに70回以上の試合数を精力的にこなしている。しかし、遠征に次ぐ遠征。「子ども達の送迎から弁当づくり、体調管理に至るまで、保護者の協力なしには全国大会への切符は取れなかった」と話し、また、寄付や振興会からの援助など「地域の皆さんや学校のご協力に感謝しきれません」と周囲への感謝の気持ちも忘れない。

#### 子ども達に伝えたいこと

「大会に出る以上は優勝を目指すのが当たり前。こんな小さな学校、少ないメンバーでも試合に勝つことで、大きな自信となることを全国大会で証明したいと思っています」。

## まいづる花図鑑 96

【ミソハギ】 (ミソハギ科) 見ごろ7~8月頃



人家近くの湿ったところに多い多年草。茎はまっすぐに立ち、高さ50~100㎝位で上部で枝分かれし、全体に無毛。葉は対生し、長さ2~6㎝、披針形で先は尖る。夏、茎の上部の葉の腋に紅紫色の小さな6弁花をたくさんつける。

名前の由来は、草の姿がハギに似て、旧盆に供物に花穂で水をかけたことから「禊萩」が変化したという説など、諸説ある。盆の頃に開花するので、盆花としてよく供えられ栽培もされる。

#### 【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員（植物分野）

